

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	データベース3(Database3)	授業コード	C165801
担当教員名	濱田 大助	科目ナンバリングコード	
配当学年	3	開講期	前期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	<p>1 基本的なPCの操作(ソフトウェア起動終了、日本語入力、ファイル処理等)と学内LANの利用(Webからの情報収集、メール等)ができること。</p> <p>2 SQL言語は必須。SQLを理解していないものは不可。SQL言語およびPHP言語を用いて演習を行います。PHPに関しては入門的な内容を演習した上で課題に移行します。課題重視となります。</p>		
受講心得	<p>欠席した学生はその授業で出された課題の回答、レポートの提出はできません。コンピュータを使用するIDとパスワードを確認しておく。体調不良の場合は遠慮せず申し出ること。</p> <p>教室内では以下の事項を禁止します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食、喫煙、緊急以外の携帯電話操作</li> <li>・指示をしていない「話し合い」</li> <li>・講義に関係の無いサイト、漫画、雑誌の閲読</li> <li>・他の講義の演習課題の作業等</li> <li>・その他、直接講義と関係の無い事項</li> <li>・帽子、サングラス、イヤホン(PC接続含む)の着用</li> </ul>		
教科書	必要に応じ、プリントを配布します。		
参考文献及び指定図書	オープンソースデータベース標準教科書		
関連科目	情報ネットワーク、情報セキュリティ、ハードウェア実験、マルチメディア演習、ドキュメントデザイン1、ドキュメントデザイン2、プログラミング応用、プログラミング1、プログラミング2 オフィスアワー		

授業の目的	<p>情報化社会の急速な発展の中、今日の情報産業の生産物はさまざまな人間の社会活動や情報技術との相互作用によってもたらされるシステム?情報システム?ととらえることができます。</p> <p>データベース1・2で学習をした、リレーショナル型データベースとその言語であるSQL(エスケューエル)を活用するため、実際にデータベースを構築、利用し、情報検索・情報発信の実習を通して理解を深めます。</p> <p>実践的な理解を得るため学内の閉じた環境を脱し、一般的な開発環境でより実践的な技術を身につけます。</p>
授業の概要	<p>演習を交え、インターネットやイントラネットに存在する情報システムの仕組みを理解します。ホスティングサービスの検討と利用について触れ、可能であれば学外のサーバにて演習を展開します。</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週: オリエンテーション	配布資料・WEBにて提示 SQL(DB1・2範囲)
第2週:	

SQL復習	配布資料・WEBにて提示 SQL(DB1・2範囲)	
第3週： SQL復習	配布資料・WEBにて提示 SQL(DB1・2範囲)	
第4週： SQL復習	配布資料・WEBにて提示 SQL(DB1・2範囲)	
第5週： LinuxとDB	配布資料・WEBにて提示 Linux教科書 前半	
第6週： LinuxとDB(環境整備)	配布資料・WEBにて提示 Linux教科書 前半	
第7週： LinuxとDB(Linux入門) 小テスト(中間)	配布資料・WEBにて提示 Linux教科書 前半	
第8週： PHP入門	配布資料・WEBにて提示 マンモス本 概要	
第9週： PHPによるDB操作 外部サーバの利用	配布資料・WEBにて提示	
第10週： 課題提示	配布資料・WEBにて提示	
第11週： 復習およびイントラ・インターネット上でのWEB-DBシステム構築課題	配布資料・WEBにて提示	
第12週： 復習およびイントラ・インターネット上でのWEB-DBシステム構築課題	配布資料・WEBにて提示	
第13週： 復習およびイントラ・インターネット上でのWEB-DBシステム構築課題	配布資料・WEBにて提示	
第14週： 復習およびイントラ・インターネット上でのWEB-DBシステム構築課題	配布資料・WEBにて提示	
第15週： 課題のプレゼンテーションおよび相互評価	配布資料・WEBにて提示	
第16週：期末試験		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考	開発環境と教科書・資料は現場に近いものを提供します。主体的な取り組みにより活用できたも	

**○単位を修得するために達成すべき到達目標**

<b>【関心・意欲・態度】</b>	自己課題に対する課題設定が行える 身の回りの情報システムの構造について考察できる
-------------------	---

<b>【知識・理解】</b>	SQLを用いて意図するデータを処理することができる Linuxサーバを構築・操作できる(運用をのぞく) Linuxサーバ内でLAMP環境を構成し操作できる 自己テーマによるWEB-DBシステムを構築し公開。他人の作品を評価できる
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	他人の課題について均等に評価できる 評価を点数以外のコメントにより行う事ができる
<b>【思考・判断・創造】</b>	他人の課題をもとに自己の課題を見直し、改善・改良ができる 自己の課題が身の回りの情報システムのどの部分に位置するか、また精度などを判断できる

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			15点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	30点	10点		
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点	10点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		15点		
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	指定された環境下でWEB-DBシステムの構築を行います。 1 ナビゲーション(ポータル)があること 2 タイトルおよび機能、使用方法が表記されていること 3 課題での取り組みであることがわかる文言を含むこと 4 背景やレイアウトが適切に調整されていること 5 検索内容や方法はもちろん、結果表示についても理解し加工等の工夫が見られること(目標) 6 課題を複数取り組み、仕組みを理解し 同等以上の応用ができること(目標)
発表・その他 (無形成果)	態度意欲は毎回の課題への取り組み 技能等は発表と、他者課題の評価の取り組み